特定非営利活動法人事業継続推進機構 研究会活動報告資料

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)

BCP維持管理研究会 活動報告

2016年 5月25日

特定非営利活動法人事業継続推進機構(BCAO) BCP維持管理研究会

1. 活動メンバ(登録者38名)

栄治 副島 一也 佐藤 信人 中谷 明男 澤田 浩 清水 田中 弘明 秋山 良治 彰克 守護 鮎川 雅俊 白澤 健志 菅谷 豊 麻貴子 石綿 貴史 歩美 内山 高桑 高橋 哲朗 幸久 大木 雅英 博史 竹中 奥田 奥山 良一 俊明 種子 浩史 千愛 玉置 小田 太一 告野 信輔 日下 國貞 裕之 至 中野 俊一郎 久保 橋本 一朗

幡谷 剛 美津江 半田 平川 健一 別役 慎介 松下 浩基 博和 森 諭 柳谷 昌宏 山下 吉田 善一郎 修一 和田

※研究会参加者は、毎回12~15名である。 (演習実施時は20名程度参加)

2. 維持管理研究会 活動の目的

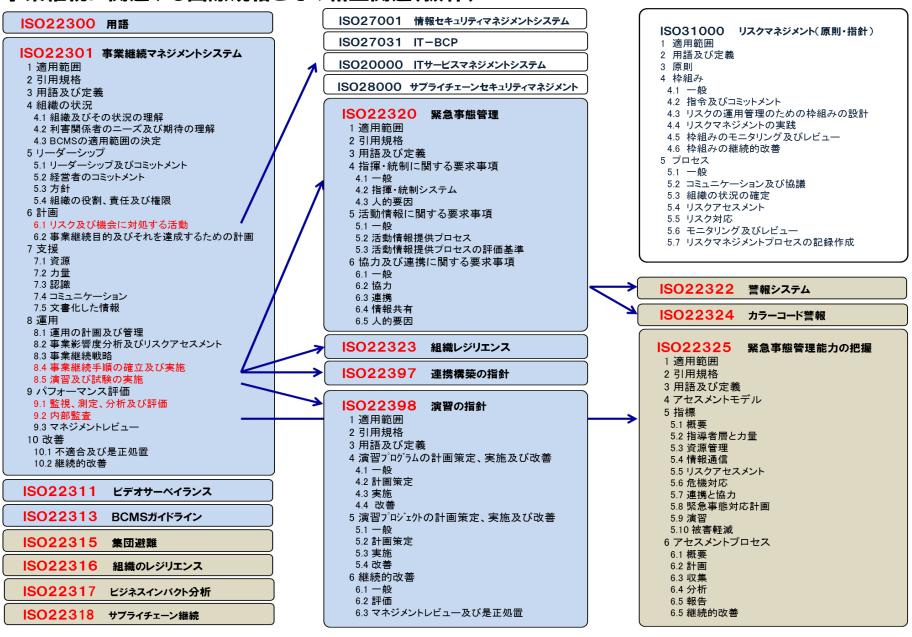
BCM推進者として、 組織(自社)の<u>危機対応能力の向上</u>を図る。

- ◆ BCM・BCMS活動の情報交換・共有
- ◆ 演習の実践、及び訓練評価の研究
- ◆ 社会セキュリティ関連規格 (ISO/JIS) の研究

BCM推進者の主業務(例)

- ・ 組織方針に基づく年度活動計画の策定
- ・ 危機管理組織の体制確立と強化
- RA/BIAの定期的な見直し
- ・ 訓練や演習の実施、及び結果評価と改善
- ・ 組織の成熟度把握と経営者への報告
- ・BCP見直し(維持・改善)

事業継続に関連する国際規格とその相互関連(抜粋)



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

3. 2015年度活動実績

	活動日		研究会内容
52回	4/16	(木)	14年度の活動評価と今年度の計画
53回	5/28	(木)	演習計画の立案、ICS研究
54回	6/25	(木)	効果的な演習の進め方
55回	7/16	(木)	次回の演習概要説明、ISO22320概要
56回	8/21-22	(金土)	被災地視察(南相馬市)
57回	9/17	(木)	企業視察(富士通エフサス)
58回	10/28	(木)	演習実施(地震初動対応:くじ引き方式)
59回	11/19	(木)	演習実施(富士山噴火:タイムライン)
60回	12/17	(木)	演習結果の評価検討、ISO22398概要
61回	1/21	(木)	効果的な年度計画策定の研究
62回	3/24	(木)	演習実施(風水害:首都圏被災)

4-1. 演習の実施

◆目的

各メンバーに企画立案、シナリオ策定、演習実施、評価 一連の流れを体験し運営のポイントを把握する。

- ニーズ分析⇒演習範囲⇒パフォーマンス目標⇒演習のタイプ(種類・方式)
- ⇒演習シナリオ策定⇒演習実施⇒演習のレビュー⇒課題抽出・改善

◆演習実施

①大地震発災時の初動対応演習(高桑さん)

様々なインシデントをクジ引き方式として、誰もが気軽に、より簡単に参加できる訓練を目的とした。 訓練者自身が被災インシデントを箱の中から取り出し、そのインシデントに対する行動や対応策を検討し、やるべきことを体得する。

◆演習実施

②火山噴火災害時の対応演習(高橋さん)

大規模噴火への準備・対応検討を迫られる事態を疑似体験し、噴火災害に慣れることを目的とした。 富士山噴火災害について考える初歩的なレベルとして タイムライン作成の重要性を理解してもらう。

③風水害発生時の対応演習(清水さん)

台風上陸時の事前対策や大規模洪水への対応を通じて風水害対策の重要性を理解する。

大型台風来襲の対応とそれに起因する河川増水・堤防 決壊による大規模災害を想定しタイムラインに則った 対応策を検討することを目的とした。

◆参加メンバーの所感

- 1 クジ引き方式は、必然的な偶然性が体験でき効果的であった。
 - ・何が発生するか分からないので、その都度頭をめぐらす事ができた。
 - ・ゲーム感覚であり、シナリオが変化に富んでおり楽しく学ぶことができた。
 - ・インシデントを自分で選ぶ手軽さが、自社の訓練に活用できる。
- ②火山噴火・風水害のシナリオは、新鮮であり様々な事業継続 案が検討でき、非常に勉強になった
 - ・噴火想定のイメージが定まらなかったので、被害洗い出しが難しかった。
 - ・発生経験がないので、各々のイメージが異なり、纏めるのが大変であった。
 - ・グループの中で多種多様な意見が出て、大変参考になった。
 - ※訓練手法や現場での進め方に大変参考になった。 ファシリテータの対応が訓練者側に与える影響や効果を実際に体験でき たので、自社の訓練に活用していきたい。

4-2. 被災地(南相馬市)の視察

現在復興に向けて全力で携わっている南相馬市、商工会議所(JC)関係の方々と直接面談でき、普段は聞くことの出来ない大変貴重なお話が聞くことが出来た。



復興に対する市民説明会を聴衆させて頂き、現在 住民から身近な問題や将来に関する不安など抱え ている多くの課題を聞くことが出来た。





4-3. エフサス様 施設見学

※事業継続に対する様々な施策・設備が大変参考に なった。自社でも参考にして取り入れて行きたい。



事業継続性の対策(抜粋)

◆サポートセンタのバーチャル統合

SIP(VoIP)システムを導入し、センター間の連携により人・設備・場所を問わないロケーションフリーであり、拠点間の切替え時間がゼロで対応可能となっている。

ユニークな顧客サービスの一環として、お国訛りの対応のために 東西に各地方要員をクロスに配置している。

◆自家発電機設備による無停電化

停電時は自動切替えにより、最大72時間の対応が可能である。 電力系統を2系統化し(2カ所の変電所)供給している。

5. 2016年度の活動方針

B C推進者として組織の更なる<u>危機対応能力</u> の向上による強い組織作りを目指す。

- ◆演習実践、危機対応能力の評価方法研究
 - ・企画、演習手法、シナリオ作成、演習実施
 - ・演習及び危機対応能力の評価手法の研究
- ◆先進企業、被災地訪問と意見交換
 - ・先進企業の視察
 - ・被災地訪問と意見交換
- ◆事業継続関連規格(ISO/JIS)の研究
 - ・指針や要求事項、ガイドラインの研究
 - ・用語の理解

6.2016年度の活動計画(予定)

	活動日		研究会内容
63回	4月13日	済	15年度の活動評価と今年度の計画
64回	5月		演習(対策本部一拠点連携)
65回	6月		演習プログラムの研究
66回	7月		企業訪問(訪問先検討中)
67回	8月		被災地訪問
68回	9月		リスク研究
69回	10月		企業訪問(鉄道会社予定)
70回	11月		演習(クロスロードゲーム)
71回	12月		演習評価手法の研究
72回	1月		危機対応能力評価の研究
73回	2月		演習(完全アドリブ版)
74回	3月		演習タイプと活用事例研究

[※] 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

参考:情報の共有

※首都圏以外のメンバーも多いため、研究会の各種資料 を容易に閲覧できるようにしている。



特定非営利活動法人事業継続推進機構 研究会活動報告資料

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)

ご清聴ありがとう ございました



特定非営利活動法人 事業継続推進機構 BCP維持管理研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation Business Continuity Advancement Organization (BCAO)